DNAR 指示に関するワーキンググループの成果報告

成果報告：

蘇生不要指示・DNAR 指示（Do Not Attempt Resuscitation）は、日常的に日本中の多くの病院で出されていますが、「DNAR」という言葉をアメリカから輸入したに過ぎず、「コンセンサスがない」というのが臨床現場の実情でした。実際、DNAR のとらえ方が、医療者個人個人で異なっており、DNAR 指示によって CPR 以外の他の治療に対しても消極的になり、生命維持治療も制限されてしまい、実質的な延命治療の差し控え・中止となってしまっている場合さえあります。しかし、それは「DNAR だから・・・」、ということで十分に議論されず、DNAR という言葉だけが一人歩きをしてしまっている現状がありました。

そこで、日本臨床倫理学会は、このような混乱した DNAR 指示の現状を改善するという目的のもと、2014 年 1 月に「DNAR 指示に関するワーキンググループ」を発足させ、話し合いを重ねてまいりました。今回の年次大会で、作成指針を皆様に発表できるのも、ワーキンググループのメンバーの熱心な議論と、オブザーバーの皆様のご助言のたまものだと思っております。

また、「生命を脅かす疾患」に直面している患者においては、CPR 以外の他の医療処置の内容についても、具体的に十分に考慮する必要があるという趣旨のもと、日本臨床倫理学会の本指針は、CPR についてだけでなく、他の医療処置に関する具体的指示も含んだ POLST＝Physician Orders for Life Sustaining Treatment という形式を採用することにしました。

実際、それぞれの医療機関の状況により、必要とされる書式・指針は微妙に異なってくるとは思いますが、日本臨床倫理学会版の POLST（DNAR 指示を含む）作成指針は、【基本姿勢】【ガイダンス】【書式】を通じて、日本中の医療機関で使用することができる基本的枠組みは示すことができたと思います。細部は、各医療機関の事情に応じて、改変・追加するなりしていただくことは可能です。

実際、まだまだ、今後の課題も山積しております。今回のワーキンググループの活動を通じて、総務省消防局との話し合いも緒につきましたが、救急隊への具体的指示については今後の課題です（＊）。また、介護施設や在宅医療における看取りに際しての POLST（DNAR 指示を含む）の普及活動も必要です。

日本臨床倫理学会版の POLST（DNAR 指示を含む）作成指針が、今後、適切に使用され、臨床現場における倫理的な医療実践につながることを心から願っています。したがって、今後も、本ワーキンググループは引き続き、本学会内外において、本指針の利用状況を見ながら、忌憚のない意見を聴取することで、評価・改訂を続けていく予定です。引き続き、皆様のご助言をお願いする次第です。

（ワーキンググループ委員長　箕岡真子）

（＊）救急隊への指示については、本書式では一般的なものを記載してありますので、現時点では、各地区の事情に応じて、所属地区の救急隊と話し合いを持ち、合意を得て、記載をしてください。

構成員：

＜臨床倫理学会担当執行部＞

＊箕岡真子

＊稲葉一人

＊新田國夫

＜メンバー＞

＊佐藤労

＊竹下啓

＊馬場　葉子

＊濱邉　祐一

＊三浦靖彦

＊宮本　顕二

＊山田陽介

日本版 POLST（DNAR 指示を含む）作成指針